

教育訓練教材作成のためのヒヤリ ハット情報収集プロジェクト

Project to collect accidents and incidents for the creation of
educational and training materials

鈴木智和¹⁾, 桧垣正吾²⁾, 高橋賢臣³⁾

Tomokazu SUZUKI¹⁾, Shogo HIGAKI²⁾, Masaomi TAKAHASHI³⁾

大阪大学・放射線機構¹⁾, 東京大学・ISC²⁾, 大阪大学・安管³⁾

IRS, Osaka Univ.¹⁾, ISC, the Univ. of Tokyo²⁾, DASH, Osaka Univ.³⁾

放射性同位元素等の規制に関する法律

第38条の4 許可届出使用者（表示付認証機器使用者を含む。）、届出販売業者、届出賃貸業者及び許可廃棄業者は、この法律の規定に基づき、原子力の研究、開発及び利用における安全に関する最新の知見を踏まえつつ、放射線障害の防止及び特定放射性同位元素の防護に関し、**業務の改善、教育訓練の充実その他の必要な措置を講ずる責務を有する。**

放射性同位元素等の規制に関する法律施行規則

第21条第1項 法第21条第1項の規定による放射線障害予防規程は、次の事項について定めるものとする。

(1)~(14) 省略

(15) 放射線障害の防止に関する業務の改善に関すること（特定許可使用者及び許可廃棄業者に限る。）。

(16)~(18) 省略

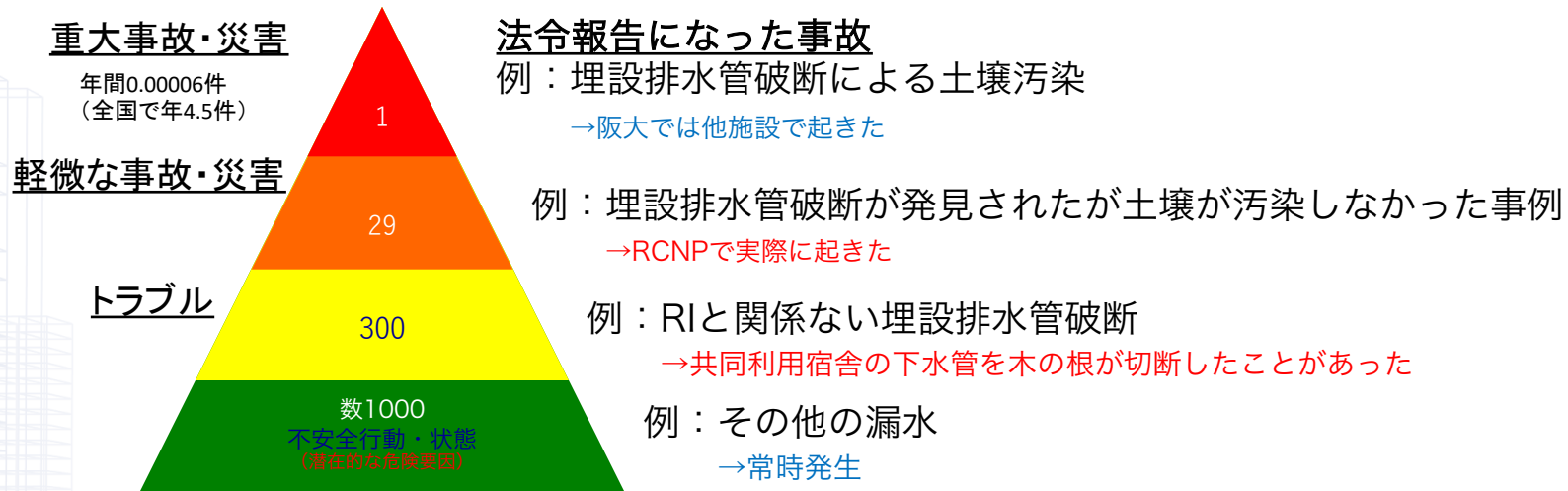
業務の改善について予防規程で定めなければならないのは特定許可事業者と許可廃棄業者だけだが、表示付認証機器使用者を含むすべての使用者に業務の改善や教育訓練の充実等の責任がある。

ヒヤリハット情報の収集

本講演では法令報告に至らなかった小さな事故やトラブル、それにも至らない不安全行動（状態）をまとめてヒヤリハット事例と呼ぶことにする。

小さなトラブルの情報を共有し、トラブルを減らす努力をすることは最も効果的な安全文化醸成活動のひとつ

⇔ 情報が公開されるのは「重大事故」だけ



ヒヤリハット情報を「最新の知見」として教育訓練の充実化を行い、安全文化を醸成することはできないだろうか？

本ページは都合により公開していません

教育訓練検討委員会の活動

RI 施設における法令報告に至らない事故トラブル情報の

収集と情報共有に向けた取り組み

Action on collecting and sharing information of minor accidents and incidents at radiation facilities

○ 梶垣 正吾¹⁾, 鈴木 智和²⁾

○ Shogo Higaki¹⁾, Tomokazu Suzuki²⁾

東京大学アイソトープ総合センター¹⁾, 大阪大学放射線科学基盤機構²⁾

Isotope Science Center, the University of Tokyo¹⁾, Institute for Radiation Sciences, Osaka University²⁾

報告していただく項目は以下の4点である。

1. ヒヤリハット事象の種類 (以下から選択、あるいは自由記述)
 - 軽度の被ばく、計画外被ばくにつながるおそれのある事象
 - 施設の線量限度超過のおそれにつながる事象
 - 線源の所在不明盗難につながるおそれのある事象
 - 汚染拡大、漏えいのおそれのある事象
 - チェッキングソースや汚染物の湧き出し
 - 管理区域内火災のおそれのある事象
2. 原因となった放射線源の種類
3. 内容
4. 対応



今後、情報提供者がメリットを感じてもらえる方策と、如何にして共有するかが検討課題になる。

講演では、発表者の施設で今年度起きた事象を実例として紹介する。

昨年度の日本放射線安全管理学会学術大会から



ヒヤリハット情報提供フォーム

日本放射線安全管理学会 教育訓練検討委員会

メールアドレス *

有効なメールアドレス

このフォームではメールアドレスが収集されます。 [設定を変更](#)

お名前・ご所属 *

記述式テキスト (短文回答)

発生日時 *

年月日

ヒヤリハットの種類 *

- 軽度の被ばく、計画外被ばくにつながるおそれのある事象 (例: 個人線量計の不適切使用)
- 施設の線量限度超過のおそれにつながる事象 (例: 線源の使用時間超過)
- 線源の所在不明盗難につながるおそれのある事象 (例: 線源の管理区域外持ち出し)
- 汚染拡大、漏えいのおそれのある事象 (例: 漏水)
- チェッキングソースや汚染物の湧き出し
- 管理区域内火災のおそれのある事象 (例: 管理区域内での漏電、トラッキング現象)
- その他...

現在13件の情報が提供されている

今年度からの活動計画

2022年度 科学研究費補助金 基盤(C)

ヒヤリハット事例を生かした放射線利用における安全文化醸成のための教材開発

研究代表者：鈴木智和、研究分担者：桧垣正吾、高橋賢臣

令和4年度	1,200千円	➡	アンケート調査 アンケート発送: JRSM事務局に委託
令和5年度	1,300千円	}	ヒアリング調査 アンケート調査をもとに現地調査を行う (10件程度)
令和6年度	400千円		
令和7年度	300千円	➡	教材作成、公開

原子力規制庁の規制研究ではないので、規制庁に研究経過の提出を求められることはない。

アンケート調査

令和4年10月1日

放射線取扱主任者 各位
放射線施設管理担当者 各位

一般社団法人 日本放射線管理学会 教育訓練検討委員会
委員長 桧垣 正吾
(東京大学アイソトープ総合センター)
RI施設におけるヒヤリハット情報収集プロジェクト
研究代表者 鈴木 智和
(大阪大学放射線科学基盤機構)

放射性同位元素・放射線発生装置使用施設におけるヒヤリハット情報提供のお願い

初秋の候、貴施設におかれましては爽やかな実りの季節を迎えられていることと存じます。このたび、RI施設における安全文化醸成と教育訓練の充実化をサポートするために「RI施設におけるヒヤリハット情報収集プロジェクト」を立ち上げました。本プロジェクトでは、RI施設において発生したトラブル等で、放射性同位元素等規制法施行規則第28条の3で規定される報告対象にまで至らなかった事象を収集し、教材化して教育訓練資料を作成するものです。教育訓練資料は公開されますが、事象が発生した施設名は伏せ、教育訓練資料に載らない情報が原子力規制委員会に提供されることはありません。また、ご協力いただける場合は、提供された情報を元に、プロジェクトメンバーがヒアリング調査を行う場合があります。プロジェクトの概要は別紙の通りです。つきましては、貴施設においてトラブル等が発生した折には、その情報を下記ウェブフォームに提供くださいますよう、お願い申し上げます。

10/14にJRSM事務局から大学・研究所の主任者宛に発送した

放射線利用におけるヒヤリハット事象の情報提供フォーム

アンケートの完了までに約4分かかります。

* 必須

情報提供者の情報を入力してください

1. 連絡先のメールアドレスを入力してください *

回答を入力してください

2. 差し支えがなければお名前を入力してください

回答を入力してください

3. 差し支えがなければ事業所名を入力してください

回答を入力してください

4. 情報提供された事業所のいくつかにヒアリング調査を行う予定です。ヒアリング調査に協力していただけますか

*

- はい
 いいえ

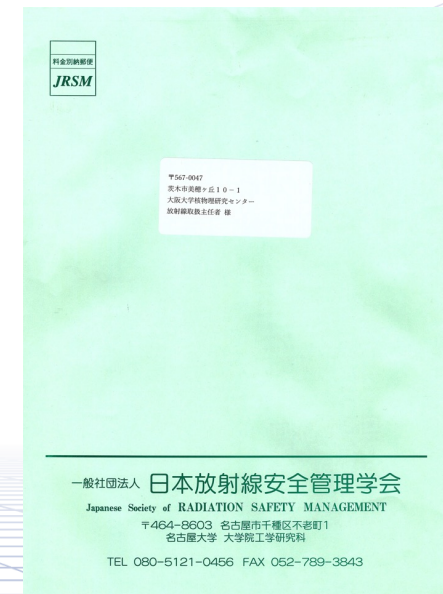
次へ

ページ 1/3

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)



<http://osku.jp/k0486>



事例収集の状況

- 2022/11/18までに5施設16件の情報提供があった。
 - 液体シンチレータのラックを運搬中にラックを落としてバイアルが破損
 - 侵入検知装置の作動/解除モードの反転
 - RI投与動物逸走→捕獲
 - 漏水（上水、排水設備）
 - 誤った場所への廃液の廃棄
- 引き続き、期限を設けずにヒヤリハット情報を収集する。



これから起こるヒヤリハット事象だけでなく、過去に起こった事象の提供もお願いします。

<http://osku.jp/k0486>

QRコードと短縮アドレスは予稿集に掲載しています。